

グラウンドワークとは・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。  
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

## 平成20年度GW三島通常総会開催

6月15日(日)、Via701にて、平成20年度の通常総会が開催され、本年度事業計画等を審議し、承認を得た。



総会後の情報交換会では、都留文科大学の高田研教授による講演「人の心を解きほぐす話し方、会議の進め方とは」があり、活動報告としては、源兵衛川生コン流出に伴うモニタリング調査の結果、3月末現在、魚が増えていない現状の説明等があった。

## 「日英GW技術交流研修会」開催

7月20～21日、(財)日本GW協会、GW三島主催の日英GW技術交流研修会が開かれた。英国GWからは、公園デザインの分野で高い評価を得ているアダム・ホワイトさん、若者の就労・就学支援に取り組むゾイ・ゴスさんを迎え、Via701と三島市内のGW活動実践地で、ワークショップや現場視察などが行われた。両日を通し、全国各地でまちづくりや環境改善活動に取り組む団体のメンバーや学生など、約30名が参加した。



この研修会では、「地域をデザインする」をテーマに、20日のワークショップでは、GW三島の実践地の鎧坂公園を取り上げ、今後のリニューアル計画や、維持管理システムについての検討が行われた。1日には、英国GWからの活動報告、また全国の参加者からの活動報告が行われた。

## 日韓バイカモ青少年国際交流in三島



日韓環境談義にバイカモの花を咲かせて

この事業は、2003年8月に、韓国ナショナルトラストのメンバーが、GW三島のミシマバイカモ再生活動に関心をもって訪日したことから始まった。2004年5月の訪韓で「韓国ナショナルトラスト江華バイカモ委員会」との間に環境交流協定を締結。2007年には、「日韓バイカモ保全青少年環境探検隊」を結成し、8月に訪韓、11月に訪日と、バイカモ保護活動に関する相互交流を進めてきた。

今回、2008年8月8日(金)～11日(月)【2泊3日のホームステイを含む】、韓国から小学生18名、引率スタッフ8名の計26名(ヒョン・ジ



ミシマバイカモの手入れ

オン団長)が来訪。環境保全活動、日韓子ども環境会議、三島の水文化・食文化・日常生活等を体験し、水辺自然環境の大切さを学ぶと同時に、日韓の友好親善も深めた。特に、ホストファミリーには、韓国側からも大きな感謝の言葉が寄せられた。(関連記事:P2)

## ビオトープ、「里山の未来」をテーマに完成

7月13日、静岡県立三島南高校では「里山の未来」をテーマとした新しいビオトープが完成した。整備には同校サイエンス部を中心に学校とPTA、同窓会、後援会、地元自治会、GW三島が協働であった。ヒメシャラ、コナラなどが植えられ、井戸水を利用した中央の池には整備中に里親に預けてあったメダカ数千匹が放たれた。今後は、生徒たちが中心になって管理にあたる。



トンボも飛んでいました

## 収穫間近の「三島そば」

栽培5年目を迎え、250kgの収穫を目標に「GW三島そばづくり隊」は8月23日「三島そば」の種まき作業を行った。市内の親子も参加し、耕運機で畑を耕したり種まき機を使ったり、子どもたちは手でまいたり体験を楽しんだ。秋には可憐な白い花が咲き11月上旬の収穫が楽しみ。



## NPOの活動理解に大学生

6月28・29日、早稲田大学で「NPO実践論」を受講の学生約30人が授業の一環として、GW三島の実践地でのフィールドワークを行った。「三島梅花藻の里」でのミシマバイカモのぬめり取りに始まり、源兵衛川を歩き、翌日には雨の中、松毛川で市民とともに草刈りやごみ拾いに取り組んだ。ビオトープやミシマバイカモを初めて見た学生の1人は、「市民による環境保全活動を実体験でき、市民活動への理解が以前より深まった」と話した。





小池政臣三島市長表敬訪問

韓国の子どもたちは、エネルギーで、積極的に環境学習に参加し、言葉の壁を越えて交流にも意欲的だった。また「三島のバイカモは、きれいな水の中で育てていて、一般の人でも見られるのでうらやましく思った」と感想を述べた。今後の

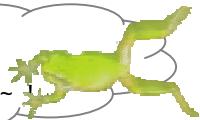
### 「富士山湧水マップ」

富士山南東麓版（日本語版・英語版）



インターネット版に続き印刷版が完成。この「富士山湧水マップ」を手歩けば、湧水のある場所へ案内してくれる。カーナビという訳にはいかないが、道案内の手助けになること間違いなし。

長伏小のカエルです  
「チョー気持ちいい〜」



日韓バイカモ交流の発展に期待できそうだ。



間伐材利用の桶やひしゃく作りにも挑戦

#### ホストファミリー・送迎のみなさま

阿久津宏孝・茂世様、原弘子様、飯田蒸一・涼子様、天野保雄・智佳子様、渡辺知明・清美様、渡井国弘・邦子様、須藤佳久・和子様、青木峯子様、中田邦夫・保子様、深山好夫・幸子様、西川二弘・直美様、渡辺豊博事務局長実家

#### 昆虫博物館・オープン！

昨年から整備を進めてきた昆虫博物館が、「せせらぎシニア元気工房」敷地内に8月9日、オープンした。韓国から日韓バイカモ交流で来訪中の小学生たちも、館内の手作り標本箱や生き物分布が示される予定の三島市内ジオラマ等を楽しんだ。今後、昆虫飼育教室など環境教育の拠点や、子どもたちとシニアとの交流の場として活用される。



#### 松毛川沿いの農道建設計画、“仕切りなおし”

三島市と沼津市境に位置し、かつて狩野川の一部だった三日月形の止水域・松毛川の河畔林とその周辺には、豊かな生態系が形成されている。土地所有者等からの要望で、10月着工予定として三島市が進めてきた松毛川河畔沿いの農道建設計画が、自然環境への影響を懸念する地域住民、専門家、GW三島の声を受け計画は仕切りなおしとなった。



農道が計画通り建設されると、河畔林の根が切られて大木が枯れたり、舗装による乾燥化が進むという。生物の専門家、地域住民と環境影響調査をしたGW三島では、現計画では環境に悪影響を与えると指摘し、農道は河畔林から一定の距離を置く形にするなど、環境調和型の新たなルートを提案。11月には、幅10m程度の河畔林を守るため、緩衝帯となる森づくりとして、1,000本の植樹を予定していることを踏まえ、「松毛川の森づくりトラスト運動」も展開していく考えを示した。

#### アメリカでも期待！ バイオトイレ



GW三島が、米ワシントン州のマウントレニア国立公園に設置したバイオトイレが6月から稼働した。GW三島と公園側が共同で3年間、実証試験する。

バイオトイレは、内蔵する杉チップの微生物の働きで、し尿を完全分解し、汚物を外に出さない構造で、1日約200人分を処理できる。同公園の敷地には、トイレが約150カ所もあり、汚物は固めてヘリコプターで輸送するため処理費がかさみ、手間のかからない自己完結型のバイオトイレに寄せる期待は大きい。6月9日のセレモニーに出席した渡辺豊博GW三島事務局長は、「有効性が実証されれば、間伐で出る杉を海外でも活用でき、日本の知恵が役立つ」と話した。

#### 2008年度 鎮守の森探検隊

子どもたちが、三島の自然を守る担い手となることを願い「鎮守の森探検隊」は続いている。



7月12日(土) 伊東市城ヶ崎海岸

「魚(うお)つき林(りん)って何？ 森と海との不思議な関係を知ろう」講師：山口康裕、細田昭博、加須屋真 30名参加

7月13日(日) 三島南高ビオトープ 「しらべてみよう川の水質と川虫の関わり」完成式と観察会 関係者60名参加

8月17日(日) 箱根西麓の森 「虫はみんな友達！のぞいてみよう嫌われ虫の世界」講師：井上智雄、杉山高史 20名参加

8月23日(土) 楽寿園 「ふるさとの宝物・楽寿園へ昆虫探検にでかけよう」共生によって保たれている昆虫の世界を通して、人と環境の共生を考えよう 講師：加須屋真、平井剛夫、原茂光 37名参加

9月20日(土) 松毛川 「声を楽しむ秋の鳴く虫 夜の観察」

講師：杉本武、加須屋真 30名参加

10月11日(土) 千本松原「海辺の松原が守る私たちの生活・松原の大切さを知ろう」 講師：菅原久夫、加須屋真 15名参加

#### 三島測候所跡地

##### 一戸建て分譲地に

「三島測候所跡地の買収と、同庁舎と一体化した跡地利用」を求めて展開されてきた活動は、9月初旬、マンション業者(株)マリモが、一戸建て分譲業者に転売したことが明らかとなり決着した。

跡地にビルが建つことへの反対理由は、この地を観測定点として存続させることの意義にある。過去の膨大なデータを生かすためには、周囲を含む同じ条件下でなければならず、今回の決着は、結集した市民力の成果として評価される。



#### 水の都・三島 環境わくわく子ども探検隊

8月30日、GW三島湧水インストラクターの案内で、「三島ゆうすいマップ」を片手に市街地の湧水ポイントを巡った。「生活の中で水を大切にするには、どうすればよいのか？」という質問に、参加した三島市内の小学生を含む親子は「風呂の残り水を洗濯に使う」などと意見を出し、水の再利用や節水に心がけるよう水環境について学んだ。



9月14日は、「三島梅花藻の里」で整備作業を行った。水質調査も行われ、ミシマバイカモが生育する環境の大切さを改めて感じたようだった。

日英若者体験交流事業



9月8日～16日、早稲田・都留文科大両学生とGW三島スタッフ、総勢8名が英国を訪問。日英の若者が共同体験を通し、多様な社会システムやNPOの社会的役割、新たな生き方を学んだ。

GWイースト・ロンドンでは、ジェレミー・テイラー所長による事業の説明後、公園等の実践地を視察し、若者ボランティアと巣箱作りのワークショップを行った。

GWブラック・カントリーでは、社会貢献重視の企業を訪問し、GAP (Graduate Apprentice Programme: 大学新卒者対象の実践的な実習プログラム) の若者7名と、農園実習や自由討論を行った。これは企業が求める技能や経験とのギャップを埋め、雇用の確保を目的としている。

参加者は、大学卒業前に就職先が決まってしまう日本社会と、学歴以外に即戦力としての経験が求められる英国社会の違いを目の当たりにし、刺激を受けたと語っている。本年12月中旬には、英国の若者たちがGW三島を訪れ、更に交流を深める予定。

チャリティーコンサートの収益金「沢地グローバルガーデン花の会」に!



9月29日(月)、「みなかみ合唱団」によるチャリティーコンサートが、みしまプラザホテルで開催された。会場一杯の聴衆は、秋の夜のひととき、美しい歌声を楽しんだ。収益金は、グローバル文化交流協会の「沢地グローバルガーデン花の会」に寄贈された。乙部美麻子グローバル文化交流協会会長は、地域環境向上のために有効に使うと挨拶をした。

Smile スマイル

みかみ まさひこ 三神 正彦さん(左側) やまぐち とうじ 山口 東司さん(右側)

世のため 人のため 自分のため GW三島のインストラクター



旧満州(中国東北部)牡丹江で生まれ、山梨県甲府市育ち。現在は三島市光ヶ丘在住。仕事は製造技術・設備関係だった。

GW三島を知るきっかけは、定年後平成18年の「富士山湧水インストラクター養成講座」の折込チラシを見て受講し、湧水に関心を持ったから。50年後でも100年後でも小浜池が復活することを願っている。

現在は、インストラクターとしての活動を中心に、事務局の手伝いから「せせらぎシニア元気工房」まで、幅広く参加している。以前は、物理・機械・電気・化学等が関心分野であったが、GW三島の活動に参加し、種々の生き物に接することが新鮮で視野が広がった。そして何よりの喜びは、地元で多くの仲間ができたことである。いつも地道にコツコツと活動を進めている。



三島生まれの三島育ち。現在三島市南本町在住。仕事は製造・生産・技術関係だった。会社で、県内初の「ISO14001」の認証に関わった。GW三島主催の平成17年「エコインストラクター養成講座」「リバーインストラクター養成講座」、平成18年「富士山湧水インストラクター養成講座」を受講。平成19年には「三島市民環境大学」も修了。

GW三島での養成講座の中で、ミシマバイカモを知ったことから、自宅前の源兵衛川にミシマバイカモを移植育成し、可憐な白い花を咲かせている。ほとんど毎日川に入り、手入れをしている。

世のため人のため、そして自分のためにGW三島を中心にボランティア活動を通じ、社会貢献をと考えての出発点だそう。実践を伴う勉強家である。趣味はゴルフ、旅行、園芸(朝顔の育成も好き)。

パッション

源兵衛川

ホトケドジョウに 夢たくし

ヤブが下になって



今日も源兵衛川に清掃に来た。源兵衛川を愛する会は、水辺環境の保全を目的に発足して15年。活動内容は、生態系の保護、親水公園の維持管理、他の市民団体との連携作業、定期的な河川清掃など。特に雨の後の清掃では、川端(カワバタ)を利用した当時が偲ばれる茶碗のかけら(ちゃんかけ)が出てくる。ある会員によると時代を感じるかけらを手にする楽しみもあるとか。昨年末の源兵衛川生コン流出事故も乗り越え、生態系の無事を喜んだが、目下の悩みは水辺に急激に繁茂した外来種の雑草のこと。会では、本来の川辺を取り戻すための努力を続けている。

源兵衛川を愛する会 会長 瀬川義恭

平成十八年「文芸三島」は第二九号を数え三五七頁の部厚い雑誌になった。創刊後しばらくは百頁にも満たなかったことを思うと、驚きに近い感慨を覚える。私たちが「三島市民サロン」を始め、昭和五十三年の秋頃、村上、山田たちと例によって「やつこ」で飲んでみると、奥田吉郎市長が微醺(びくん)をおびて入ってきた。飲みながらの雑談の中で、地方の時代が云々され、緑と水と文化の街づくりが喧伝されている時、三島における文化事業の実態や今後如何にあるべきかなど熱っぽく話はずんだ。そして沼津その他で発行している文芸誌を三島でもやったらどうかとハツパをかけた。「同感です。予算はとる。造るのはあなたたちだ」話は早かった。

そこで私たちは編集委員として井上垂穂、久保田松幸、佐々木高幹、鈴木忠(桜屋主人)、中尾勇氏等に声をかけ私たち三人も加わり委員を発足させ、小説随筆評論小出正吾、短歌大岡博、俳句五所平之助、詩大岡信と錚々たる方々を選者に迎えた。昭和五十四年三月「文芸三島」はそうして誕生した。頁数は六六頁、増島豊治の装丁でちよつとおしゃれなA5版、それなりに喜んだものだ。だが昭和五十六年、五所平之助、鈴木忠、大岡博各氏を相次いで失い、編集委員たちにとつて、まさに痛恨の極みであった。その年市制四十周年、「文芸三島」は三号四号の二冊を発刊。時の流れと共に委員会のみも移り代わつて、一号、三号の委員長は久保田松幸、四号からは現在二九号まで藤岡武雄委員長で短歌の選者も兼ねている。他の選者は小説松本鶴雄、評論中尾勇、随筆久保田松幸、詩大井康暢、俳句後藤秋邑、川柳萩田飛遊夢、はめ宇田熊清彦諸氏である。ふと顧みると選者や委員として永い間、ご尽力頂いた方々がもういない。そのご冥福を祈り、更なる隆盛発展を切に願うだけだ。(敬称略)

シリーズ 三島源人

4

「文芸三島」

なかがわ 和郎 三島副理事長

## GW三島で活動の インターンシップ

みづらひとみ  
三浦 瞳さん  
(早稲田大学)  
8/4 ~ 15日  
日韓バイカモ交流他



ふじいたろう  
藤井 太郎さん  
(筑波大学)  
8/6 ~ 13日  
日韓バイカモ交流他



みずまなみ  
水島 直美さん  
(早稲田大学)  
9/11 ~ 21日  
そば畑作業他



おおむらりょう  
大村 龍太郎さん  
(早稲田大学)  
9/18 ~ 20日  
鎮守の森探検隊他



やましたなおき  
山下 直紀さん  
(早稲田大学)  
9/17 ~ 25日  
そば畑作業、  
鎮守の森探検隊他



やまもとともき  
山家 友明さん  
(早稲田大学)  
9/22 ~ 29日  
そば畑作業、  
鎮守の森探検隊他

### 視察に訪れたみなさん H20.6 ~ H20.10

月	日	団体名	人数	住所
6	8	稲生地区自治会連合会	25	三重
6	28	早稲田大学 NPO 実践論ゼミ (-6/29)	30	東京
7	5	早稲田大学、都留文科大学 (~7/6)	26	東京山梨
7	6	金砂郷地区町会長協議会	48	茨城
7	12	東京農工大学 (~7/13)	70	東京
7	15	クラブツーリズム(株)交流フェイズ 2008	100	東京
7	22	大井町環境保全課	11	神奈川
7	27	東高橋地域資源保全会	40	栃木
8	24	湖西フロンティア倶楽部	20	静岡
9	7	名古屋大学環境学研究所清水・村山研究室	20	愛知
9	19	高倉ふるさと協議会 (~9/20)	15	埼玉
10	3	竜丘地域づくり委員会	25	長野

#### < 定例作業 >

- 三島梅花藻の里作業 原則月・木・毎月第2日曜日 計49回
- 鏡池作業 原則毎月第1土曜日 計5回
- 源兵衛川作業 原則毎月第2日曜日 計5回

#### < 定例会 >

- インストラクターミーティング 計5回
- スタッフ会議 計5回



GW三島編集室も  
専門家を交えて自然観察

## GW三島のボランティア紹介

まつだのりこ  
松田 徳子さん

長崎県長崎市出身。大学時代にクラスメートとNGOを立ち上げペルーのスラムで教育支援を始めた。これがきっかけで英国マンチェスター大学大学院修了後、国際協力機構(JICA)の専門家として、ガーナ、ドミニカ共和国などの途上国への教育開発に取り組む。帰国後、外務省に入省し、教育分野の政府開発援助に関わる国際的な援助協調業務に従事。昨年より休暇中。



GW三島へ来たきっかけは、三島市民による源兵衛川保全の取り組みに衝撃を受けたため。英語、スペイン語の語学力を活かして、2008年9月、「日英若者体験交流事業」へ通訳として同行した。

## GW三島事務局紹介

まつだゆきえ  
松田 幸江さん

静岡県牧之原市出身で同市から片道2時間通勤。豊かな自然に恵まれて育ち、人一倍自然環境への関心が高い。2006年9月、静岡文化芸術大学大学院生のときにGW三島主催の英国GW視察研修に参加。



大学での専攻は文化政策。芸術関係のNPO活動(例えば子どもたちとのアニメ作り、工作教室など)を通して地域づくりに果たす芸術の役割などを実感。その後「NPO中間支援組織研究」をテーマに修士論文研究に取り組む。芸術が好きで、ピアノ、クラリネットを演奏したり、美術館へ出かけたりする。水泳も得意。

2008年春からGW三島に就職。職場では大学生をはじめ多種多様な人々と交流が出来ることに感激。現在、最も興味のある事業は、「鎮守の森探検隊」や「環境わくわく子ども探検隊」などの、子どもを対象とした自然探検隊プログラムだそうだ。

### GW三島活動記録 2008年6月1日 10月15日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
6	1	日	三島測候所を保存する会	三島測候所保全のための青空シンポジウム	三島測候所跡地	70
6	8	日	腰切不動尊	大祭(5月25日の振替開催)	腰切不動尊	100
6	15	日	通常総会	通常総会	Via701	58
			情報交換会:基調講演	人の心を解きほぐす話し方、会議の進め方とは! 高田 研(都留文科大学文学部社会学科教授)	Via701	53
			情報交換会:活動報告	グラウンドワーク三島の多様な活動報告	Via701	53
			交流会	交流会	Via701	30
6	29	日	三島南高ピオトープ	整備作業(5月25日の振替開催)	三島南高校	40
7	1	火	富士山湧水出前楽校と湧水守り隊	H20「JT」青少年に関するNPO助成事業、助成金交付式	JT静岡支店	4
7	5	土	視察研修	早稲田大学、都留文科大学	三島市内、Via701	30
			松毛川	ワンデイチャレンジ(植樹地の整備作業)	松毛川	40
7	6	日	そばつくり隊	草刈り、地ならし、溝掘り	三ツ谷そば畑	10
7	12	土	視察研修	東京農工大学農学部フィールドワーク	三島市内、Via701	70
			鎮守の森探検隊	魚つき林って何?森と海との不思議な関係を知ろう	伊東市城ヶ崎海岸	29
7	13	日	視察研修	東京農工大学農学部フィールドワーク	三島市内、Via701	70
			鎮守の森探検隊	しらべてみよう!川の水質と川虫の関わり	源兵衛川	72
7	15	火	視察研修	クラブツーリズム内定者研修「交流フェイズ2008」	生涯学習センター	8
7	19	土	環境わくわく子ども探検隊	昆虫のすみかや育て方を知ろう	Via701	43
7	20	日	GW全国研修センター	日英地域デザイン・ワークショップ	Via701	30
				日英懇親会	Via701	35
7	21	月	GW全国研修センター	グラウンドワーク三島活動現場視察	Via701	25
				日英グラウンドワーク交流会	Via701	35
7	28	月	湧水復活!街の小さなダムづくり	H20全労済地域貢献助成事業 助成金交付式	東京	2
8	2	土	そばつくり隊	施肥	三ツ谷そば畑	10
8	3	日	環境わくわく子ども探検隊	昆虫博物館オープニングイベント	悠遊工房ひろかわ	50
8	8	土	日韓バイカモ小学生交流	韓国江華島より来訪(~11日)	三島市内、富士山録	40
8	10	日	環境わくわく子ども探検隊	源兵衛川をきれいにしながらちゃんかけ拾いに挑戦!	源兵衛川	10
8	17	日	鎮守の森探検隊	虫はみんな友達だ!のぞいてみよう嫌われ虫の世界	グラウンドワークの森	16
8	23	土	鎮守の森探検隊	ふるさとの宝物・楽寿園に昆虫探検に出かけよう!	楽寿園	37
			そばつくり隊	種まき	三ツ谷そば畑	12
8	30	土	環境わくわく子ども探検隊	三島の湧水を探してみよう!	三島市内	11
8	31	日	湧水復活!街の小さなダムづくり	手桶・ひしゃくづくりと打ち水	三嶋大社宝物館前	20
9	2	火	そばつくり隊	畑の手入れ、大根の種まき	三ツ谷そば畑	10
9	8	月	日英若者体験交流事業	英国視察(~16日)	英国	8
9	14	日	環境わくわく子ども探検隊	ミヤマバイカモを守るのはきみだ!	三島梅花藻の里	12
9	20	土	鎮守の森探検隊	声を楽しむ秋の鳴く虫の観察	松毛川	25
9	28	日	富士山湧水インストラクター-実践講座	水の山・富士山の魅力とは	三島市民活動センター	20
10	3	金	中郷温水池	ホテイアオイ掃討大作戦	中郷温水池	30
			日韓国際バイカモサミット	「壺」保全交流会、「食」の交流会	山形県山形市	5
10	4	土	源兵衛川環境モニタリング調査	魚類調査	源兵衛川第7ゾーン	13
			日韓国際バイカモサミット	日韓国際梅花藻シンポジウム、山形五堰現地研修	山形県山形市	5
10	11	土	鎮守の森探検隊	海辺の松原が守る私たちの生活松原の大切さを知ろう	千本松原	15

### グラウンドワーク三島 ボランティア・ニュース36号編集室 (GW三島事務局 担当: 松田幸江)

岸野和子 城所但帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 本田博子 前田充子 水野幾子 村澤圭 山崎多紀子(50音順)